



お客さま向け資料

ブラジルの政策金利引上げについて

BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

2010年7月21日(現地)、ブラジル中央銀行は定例金融政策委員会(COPOM)において6月9日に続き今年3回目となるSelic(政策金利)の0.50%の引き上げを決定しました。これにより、Selicは年率10.75%となりました。

先進国に先がけて世界的なりセッションから脱却したブラジル経済は、5月鉱工業生産が前年同月比14.80%増と堅調に推移しているほか、6月消費者信頼感指数が118.50と、5月の116.30(116.0から上方修正)から上昇しています。また、ブラジル中央銀行が公表する市場予想では、2010年予想GDP成長率は7.20%で(出所:ブラジル中央銀行、2010年7月16日現在)、ブラジル経済は引き続き好調であることがうかがわれます。

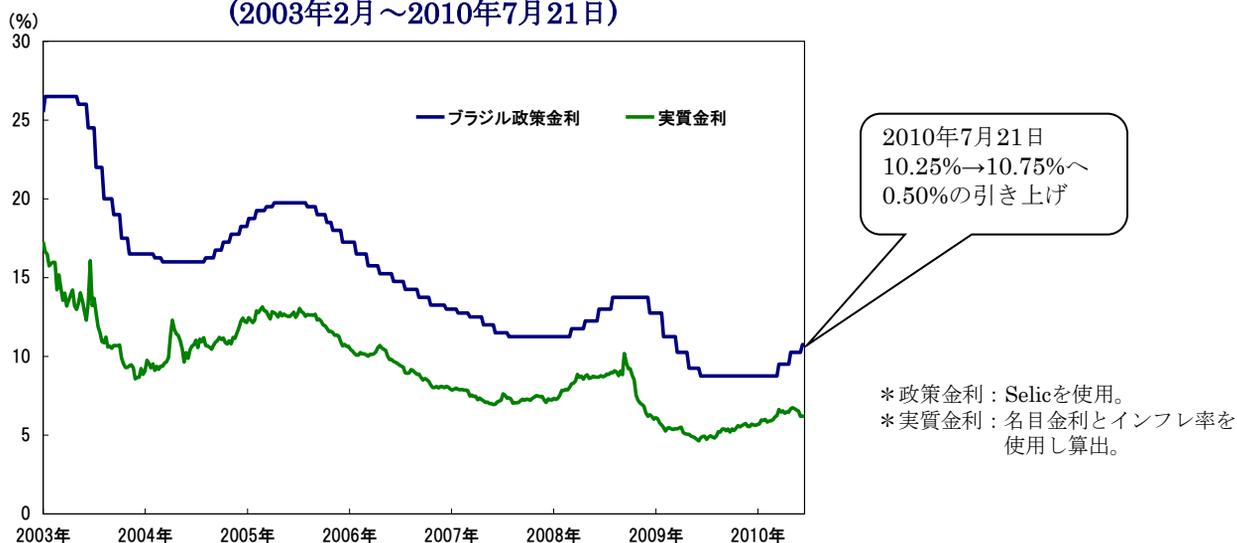
順調に進む景気回復や、所得の増加による購買力の上昇を背景としたインフレ圧力の高まりから、ブラジル中央銀行は2010年4月と6月に政策金利を合計1.50%引き上げました。ただ、6月に入り、新規雇用登録件数が21万件強と、市場予想の約27万件や5月の25万件強を下回ったことから、国内経済に鈍化の兆しも見受けられるようになりました。消費者物価指数も6月の拡大消費者物価指数(IPCA)が前月比0.00%増、前年同月比も市場予想の4.96%増を下回る4.84%増、6月15日から7月13日までの月中拡大消費者物価指数(IPCA-15)も前月比0.09%減と、過去4年間で初めて前月比マイナスとなりました。

こうしたなか、マクロ指標が好調を継続していることを背景に、ブラジル金融当局は10月の大統領選の前に利上げサイクルを一旦停止させ、持続可能な成長路線の維持を目ざして追加引き上げを行ったと見られますが、上述の通りインフレ圧力は低下していることから、金利の引き上げ幅を0.50%に留めたと考えられます。

市場では0.75%の引き上げ予想が多数派でしたが、利上げそのものは既に織り込み済みで、為替市場では対ドルが1米ドル=1.78レアル、対円でも1レアル=48.87円となり、大きな影響はみられません。

ただし、足元では欧州の債務危機による世界的にリスク回避姿勢の高まりから、海外要因の影響を受けることも想定されるため、ブラジル株式につきましては、当面は慎重な運用を行ってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移
(2003年2月～2010年7月21日)



出所:ブルームバーグのデータをもとにBNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が算出

本資料は、ビー・エヌ・ピー・パリバ アセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解を提供することを目的として、2010年7月22日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できると思われる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。